

る漁港中第一位にあり、沿岸航路の寄港地である。

天草は徳川時代に天主教を信ずる者の多かつた處で、現今も其の遺跡や傳説を残し、寛永十四年天草一揆の際には富岡城の如きは教徒のために襲撃された。爾後天草は幕府の直轄となり代官によつて支配されることゝなつてゐた。

天草婦人の活動、島外出稼の風習は男子を凌ぐばかりであり、ことにその海外進出に至りては驚くの外はない。(上治)

新著紹介

○大地の構成

本間不二男著 古今書院發行
定價一圓二十錢

本書は一名を地殻變動論概説といふ、中に地學大觀、地表面の地學的特性、地球の地理的及び化學的性質、地殻變動論概説、我國に於ける地殻變動、岩漿の地力學、地形と地質との交渉の七章を含む、極めて流暢明快に書かれてあつて、いかにも難解のことが、さら／＼と平易にわかりやすく説いてあるといふのを以て、本書の特色とすべきであらう。(藤田)

○概觀日本地誌上卷

山本熊太郎著 古今書院發行
定價四圓五十錢

本書はさきに山田香川氏の概觀世界地誌の姉妹篇として出たものであるが、緒論と奥羽、關東、中部、近畿、中國、四國の七章から成立してゐる、日本の氣候區を四帶十二區に分ち地誌區として二十三區に分ち、さうした區分について土地と人文との關係を明にせんことをつとめたものである。猶簡單なしかし要領を得た地形略圖が多數に入つてゐて、著者苦心の跡を語る處が多い。人口分布にドットマップを用ひてゐられるが、これは著者の得意とする所であるけれども我々には明確に濃淡の感が出てこないで、點一つの位置についても疑を抱かしむる恐がある。猶工夫の必要があると思ふ。記事は一般に簡潔にして要を得てゐる。早く下巻が出て世に弘まらんことを望む。(藤田)

○尾瀬と鬼怒沼

武田久吉著 東京梓書房發行
定價三圓

本書は山岳通の人には、既によく知られた地名であるが、尾瀬といへば五萬分一地形圖の燧嶽及藤原圖幅に見らるゝ深山であつて、そこに濕原尾瀬ヶ原がある、山間の小さい尾瀬の沼澤もある、夏期高山や深山の植物景觀を探ぐる人の手引にもと書かれたもので四六版三六九頁の本文に寫眞版百枚を附加した驚くべき美本である。價の廉なのが何よりも重寶である、本文亦美辭麗句にとみ決して乾燥な植物採集記ではな

い、ことに一二七の頁降電の記のごときまことに名匠の美文であつて一讀三嘆之を久しうしたものである、春の尾瀬、秋の尾瀬、著者は心ゆく迄この山間の名勝にあこがれて何回となく訪ねてゐる、恐らく尾瀬の名が天下に普及するものとせば本書は實にその功績を荷ふべきものであらう。(藤田)

○長崎縣地理概要

森壽美術著

大阪佐藤郷土地圖研究所發行

長崎師範の森君は其郷土地理の學習用として菊版四十頁のこのパンフレットを出した、定價五十錢は少しく高い、郷土としての地理的區劃もうまく出来てゐるが、これは主として教師用であつて生徒用ではない。(F)

○關東州郷土地理學習

福田收作者

大連の彌生高等女學校で郷土地理を學習するための參考書である、これも菊版四十頁の非賣品であるが地圖も多く入つてゐていかにも面白く出来てゐる、すべて談話問答式に達筆にかゝれてゐる、この種の地誌の中では出色のものであるとを信ずる。(藤田)

○老子と莊子

武内義雄著 岩波書店刊行
定價一圓二十錢

學藝叢書第十編として出た東北大學の武内博士の快著である。著者には既に老子原始、老子の研究といふ二大名著がある、本書はその老子から莊子への思想の變遷を簡潔にかゝれたものである、古書を検討して縦横にその新古を論じ眞偽を

證してある處に於て、我等は資料を取扱うべき方法を教えられる、予はこの永い夏休みの間に、本書を讀んだことの幸福を追想し敢て本書を讀者に推薦したい。(藤田)

雜報

○隕石(圖版解説)

第四圖版に示せる隕石は、滋賀縣甲賀郡石部町の素封家山本順造氏の所有に係り、落下の時處は明確で無いが、約五〇年前滋賀縣瀬多附近に落下したとの傳説あり、長さ五〇糎、幅最大三三糎、厚さ二二糎に達し、重量七貫目、比重約三・三あり、黒褐色を呈し、裏面には數個處に特有の凹穴ありて、形狀頗る美事なものである。(I)

○米國ルイジアナ州の鰻と日本

北米ルイジアナ州

に於て生産する鰻は米國全州の總生産額七〇、一二〇、〇〇〇封度其價格二百八十萬弗の中約半數にあたり、州内水産の第一位を占める、其主産地は當州ジェファーソン郡バラタリヤ灣チエンバリエ及エルボル地方、セントバーナード郡ボルグ湖及其附近の湖沼地に加ふるに廣いメキシコ灣の沖合でとる種類は多いが取引に供するものは三、四種であつて河鰻は甘美であるが大きい三吋位に達し、主に地方で消費される、第二に海鰻であるがブラジル鰻といふのは三吋半位の小さいので之を捕つて乾鰻とする、第三の大鰻は六吋乃至八吋で最も輸出に適する、最初は網でとつたが、近頃はトロールでとる、